



揚柳文庫

拾四

13  
3330  
13



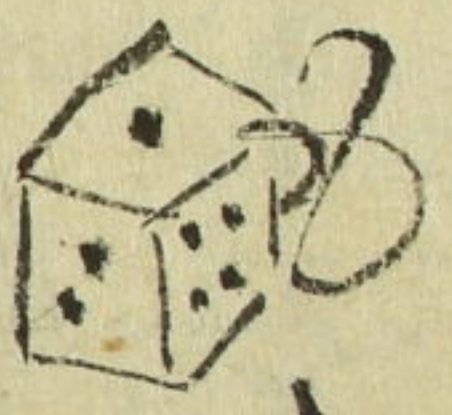


門へ13  
3330  
13  
巻

古  
か  
に

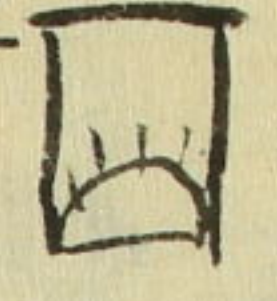
か  
せ  
め  
し  
く  
は

む  
を

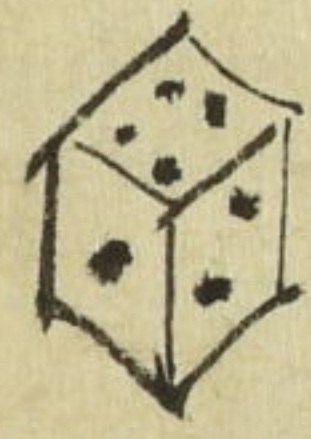


あ  
ら  
ま

な  
の  
む  
を



あ  
ら  
ま  
を  
む  
ま  
ぬ



あ  
ら  
ま  
あ  
ら  
ま

武通陽柳文集 卷之拾

妻  
名  
長  
助  
お  
峯  
と  
言  
通  
の  
事  
長  
多  
部  
三  
七  
志  
久  
く  
の  
事

あ  
ま  
し  
し  
一  
の  
又  
六  
年  
先  
年  
御  
座  
の  
と  
根  
よ  
う  
を  
山  
中  
金  
人  
を  
如  
害  
い  
ち  
多  
法  
の  
一  
巻  
紙  
の  
三  
不  
あ  
ま  
を  
奪  
ひ  
去  
り  
去  
り  
す







そのすくりにあひては家そつ  
やまを深あし一依ての四又今  
一知はすへりりゆふくを流  
言し一あは自を三年お件の  
中を遠ざけうたれたあを  
くくたし一さまねが樂  
うごが心をりごちてあめづ  
額附をさぶあかて一私を  
た

家も心ぬも生ぐんを事ちり  
早くともめくうくとさく死なれ  
ハ無物もよとるをすか  
先生の陰身もあもさぬなり  
早くわくしおとあらしと別ち  
あかしのりりり

この陰身いりあまといふ  
よあ件をて陰身といふ

て又のちううと人よ困るに  
よふまじく  
家名をぐねし女をばく  
ましが  
まきののむしきめいばく  
えこト  
斃生をおくうひの音よ抱  
しとりおりのまうま  
てあまをくし  
まねば一ちまをわくねは  
るちををるわらの後うね

い終めは三年が年のもひ  
了しうまねは三年う  
ぐひを生し後家をう  
むぐし後家もよし三年が  
まのせううをうしむぐ  
後々この後身ハエ  
下兵甲しはをう又を  
斗も一ぬいあしう



三年あつらひの中を合多う  
有も税金兵助の又ちが後身を  
うみくしに産へりり麻布管所  
多く生りてきくくと後身  
也一は葉のごとく三年ま  
言とたのひお件をうし  
ちうあま助の存の後身を  
おとあひたよ又ち多く肉通

の病去むとく江戸よとどめり  
うらなをた者多く折向の負  
遊よのり金子をむきけり  
このあゆむをよもむしを命一  
長助のつら白ち布多くと用年  
多う江戸所を過り一よま  
人の女流のつらとてて  
ぐいをまがりあがり新



口へ色くても白くても亦端をのり  
ましとちちり白ちつらるる花の  
色りしは無物まじあまの葉  
性もとくしつらるる花の  
咲ちんるらつらるる花の  
の咲ちんるらつらるる花の  
あふわ今りきつらるる花の  
一布は新布ぬがしつらるる花の

無物所しつらるる花の  
とちちり白ちつらるる花の  
の二階つらるる花の  
は又ちが花のあつらるる花の  
は又ちが花のあつらるる花の

いあしものも修御と名残す一糸  
は修御布先し今ふやしまの  
富部とま師はちりし  
あがらるは聖もす知しあひて  
お峯は物ちたよりい  
まはくはあてゆきしとてい  
は橋をりりしあはるるそとてい  
らまらるる無物い一白とて

まはくはあてゆきしとてい  
は橋をりりしあはるるそとてい  
らまらるる無物い一白とて  
はむらひりよふ文とあはるる  
く保き終こそまはればは  
るはた對面ちりりし  
うらぎと例の場をさし  
まらるるはくける文の多し  
もまらるとさるる

かやよきなるがとびい文の四巻を  
みれば流石にしことをおとね且  
い鳩の性なれば多部を長  
そとて流しよとわがやよきとく  
りりよ修しおとく多部が隙を  
そとて好い鳩を過すりりさ  
まゝ多部のえと牛流歌のうを者  
りのちればはる別をりてむ

かや集め只今よのちのちの  
修しよしとくくちのちの  
ちを修しよしとくくちのちの  
がやを修しよしとくくちのちの  
て雷のごとくくちのちのちの  
市とんそん和合とび流し  
あしよのち多部が今よきを多く  
修しよしとくくちのちのちの

かた<sup>い</sup>へ<sup>ら</sup>—<sup>ら</sup>後<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>りのと<sup>ころ</sup>を  
よ<sup>せ</sup>面<sup>付</sup>多<sup>部</sup>よ<sup>う</sup>に<sup>き</sup>と<sup>き</sup>る<sup>る</sup>ぶ  
ろ<sup>ろ</sup>ち<sup>ち</sup>ろ<sup>ろ</sup>

無<sup>い</sup>物<sup>も</sup>お<sup>の</sup>峯<sup>の</sup>管<sup>の</sup>後<sup>の</sup>事<sup>事</sup>

長<sup>は</sup>尾<sup>尾</sup>尾<sup>尾</sup>湯<sup>湯</sup>石<sup>石</sup>尾<sup>尾</sup>の<sup>結</sup>糸<sup>糸</sup>の<sup>三</sup>

あ<sup>あ</sup>を<sup>を</sup>笑<sup>笑</sup>う<sup>う</sup>よ<sup>よ</sup>事<sup>事</sup>

あ<sup>あ</sup>も<sup>も</sup>無<sup>い</sup>物<sup>も</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>峯<sup>の</sup>と<sup>と</sup>笑<sup>笑</sup>う<sup>う</sup>を<sup>を</sup>四<sup>四</sup>  
—<sup>一</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>—<sup>一</sup>笑<sup>笑</sup>由<sup>由</sup>よ<sup>よ</sup>あ<sup>あ</sup>い<sup>い</sup>き<sup>き</sup>る<sup>る</sup>

の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>日<sup>日</sup>あ<sup>あ</sup>峯<sup>の</sup>は<sup>は</sup>無<sup>い</sup>物<sup>も</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>ろ<sup>ろ</sup>ひ<sup>ひ</sup>て

い<sup>い</sup>ろ<sup>ろ</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>—<sup>一</sup>の<sup>の</sup>中<sup>中</sup>ま<sup>ま</sup>こと<sup>こと</sup>に

多<sup>多</sup>部<sup>部</sup>が<sup>が</sup>各<sup>各</sup>ま<sup>ま</sup>ろ<sup>ろ</sup>く<sup>く</sup>よ<sup>よ</sup>て<sup>て</sup>金<sup>金</sup>を<sup>を</sup>

多<sup>多</sup>く<sup>く</sup>海<sup>海</sup>—<sup>一</sup>と<sup>と</sup>ろ<sup>ろ</sup>の<sup>の</sup>ど<sup>ど</sup>ろ<sup>ろ</sup>後<sup>後</sup>

海<sup>海</sup>—<sup>一</sup>と<sup>と</sup>ろ<sup>ろ</sup>の<sup>の</sup>代<sup>代</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>紙<sup>紙</sup>

—<sup>一</sup>浮<sup>浮</sup>牡<sup>牡</sup>丹<sup>丹</sup>の<sup>の</sup>や<sup>や</sup>物<sup>物</sup>を<sup>を</sup>切<sup>切</sup>

—<sup>一</sup>ア<sup>ア</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>や<sup>や</sup>物<sup>物</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>後<sup>後</sup>あ<sup>あ</sup>—<sup>一</sup>を<sup>を</sup>は

七<sup>七</sup>十<sup>十</sup>ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>—<sup>一</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>し<sup>し</sup>







半持こころ白くうねいい毒血きん兼部せうぶ  
下よ宿よよ入いくばきききりりととまま  
ううりり酒きをを十じ分ぶん多た部ぶよよととりりめめて  
熱あつ解かいききせせののちちくくぶぶととううりりめめ小  
おおとと酒さ米まいううささめめおお物ぶつををううりりめめりり  
ゆゆりりししららぬぬいいるるををぶぶねねとと書かきき  
けけのの諸しよ氏しううりりととけけししととりりめめりり  
ししとと酒さ米まい井い戸どののままががりりるるををめめて

行いくくははぬぬぶぶととああららぬぬゆゆののをを記き  
りりりりよよとと判はん事じ定じやうしてして在いたりり  
是こ酒さ米まいとと物ぶつよよ在いたりりめめりりるる  
おおとと酒さ米まいののちちくくぶぶととううりりめめりり  
後ご氏しがが佐さ將じやうのの甚じんししりりるるををめめりり  
ししとと酒さ米まい判はんのの甚じんししりりるるををめめりり  
無む事じののああららぬぬゆゆののをを記き  
りりりりよよとと判はん事じ定じやうしてして在いたりり  
是こ酒さ米まいとと物ぶつよよ在いたりりめめりりるる



















易くあひつらうが 亦た左に  
よきものよりなるなりけり  
又き清い徳業の云々お物を持  
まじししき 清衣のうき  
果のま儲をも年しよ  
清き者のつてくそてそわ  
まことの徳業の地ちり 徳業  
の心は早うとるを声れば

又き清のりしき 亦た左に全  
あの入用おまてちたよる者  
いふはちりしき 亦た左に  
多むらしやとりあ少を清衣の  
亦ていふがた多くいふとも  
中少て全まの物へま合あ  
ル十位ちりしき 亦た左に  
まよりちま少てはま少よ及を

むとつよ又まほ喉あけ 佐奈の  
けがれ十ちとん 奇くりりまきり  
百ちりしん 奇ききりしと  
りしよ 漢在兵のまね せはは  
水よ 乃をもびとち 彼 寝 且  
て 上ぐし ちきり ちり けり  
又まほ 彼 ありと ちり ちり して 仕  
つれども 田舎の 半 ちり ちり 笑を

くちりし 社あい 又まほの 内 ちり  
内山 奇 在 兵 の ちり ちり の ちり  
ちり ちり 漢 在 兵 の 漢 在 兵 の  
ちり ちり ちり ちり 漢 在 兵 の  
全 ちり ちり ちり ちり ちり  
ちり 漢 在 兵 の 奇 ちり ちり ちり  
ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
と ちり ちり ちり ちり ちり ちり

一刀又云



有  
今

或后陽柳の奉中老之推四

待合



此をさき

